

志摩市内 保育所・幼稚園・小中学校  
保護者の皆様

令和3年4月

子どもの育ちや学びの支援



# 志摩市総合教育センター



志摩市総合教育センターは子どもたちの健やかな成長を願って、子どもの育ちや学びの支援を行っていきます。

## 教育相談を行っています

お子さんの教育に関する心配事について相談員がお話を伺い、保護者の方とともに考えます。

**(来室相談・電話相談)月曜日から金曜日 午前の部 9:00~12:00  
午後の部 13:00~17:00**

**(相談専用電話番号)0599-52-0282**

時間外をご希望の方は、事前にご連絡ください。



## 臨床心理士によるカウンセリングを行っています

お子さんの教育のことで悩みや不安をかかえている保護者の方や、お子さん自身を対象に臨床心理士によるカウンセリングを行っています。予約が必要ですので、事前にご連絡ください。

**(カウンセリングの日)毎週火曜日 13:00~18:00**

**(予約のための電話)0599-52-0281(志摩ふれあい教室)**

**0599-52-0282(相談専用電話)**

\*上記いずれかの番号へおかけください。\*



### 相談室

少人数で話ができる空間です。北側にある部屋で、駐車場や道路から室内が見えることはありません。

### 出入り口

正面玄関からの出入りに心配のある方は、駐車場わきの扉から直接センター内に入ることができます。

### 相談室周辺

静かな環境で話すことができるよう、相談室周辺には「相談中」の案内板を設置したり、予約時間まで過ごしていただくスペースを設けたりしています。

来室相談にあたり、心配なことがある方は、事前にご相談ください。

# 志摩ふれあい教室

が活動を行っています

## 先輩から

センターには、長年志摩ふれあい教室で指導員をしていた職員が相談員の一人として勤務しています。かつてこの教室に通っていた子どもたちが、高校生や大学生となり、この相談員のもとへ近況報告に来てくれることがあります。そして、当時の自分や今の自分、親の思いや学校のことなど、今だから話せるたくさんの思いを語ってくれます。

中学生時代この教室に通い、今は大学生になったある男子生徒とそのお母さんの話を紹介します。

## 思い出は…

- 地元のおじさんやおばさんと一緒に働いたこと。「勉強ができないともいい。それよりしっかり食べてそのやせた体をなんとかせえ！」って言ってくれたことがうれしかった。
- 臨床心理士さんと話すことがとても好きだった。その時の話は今でも覚えている。ぼくのいいところを見つけてほめてくれたこと、ぼくの全部を肯定してくれたことがうれしかった。
- ゲームに熱中し、そのことで全国に仲間ができたこと。ゲームは今でも息抜きの時間となっている。
- 進学した高校は、自分にとても合っていた。自由度が高かったし、働いている人など、いろんな人がいて、いい刺激になった。

ふれあい教室は、何らかの理由で学校へ通えない子どもたちの心をサポートします。教室には指導員が2名いて、子どもたちの支援を行ったり、保護者や学校職員と子どもについて話をしたりしています。



ぼくは、中学1年生のガルテンウイーク明けから学校に行かなくなった。今となっては、その日がぼくの記念日だと思う。

## あの頃は…

- ほぼ毎日悩んでいたなあ…。今やっと人に悩みが話せるようになった。自分で答えが見つからないから悩んでいたのだと思う。
- 学校を休むことで親や周りの人に迷惑をかけていると思っていた。
- 周囲の人たちがなんとか自分を学校に戻そうとしている雰囲気が嫌だったなあ…。
- 学校を休んでいることを悪く言わされたこともあった。とても腹が立ったけど、いつか見返してやりたいとも思っていた。

## 後輩たちへ…

- 自分の好きなことを探して、のめり込むほどやるのもいい。ぼくは、幼い頃から続けていた習い事を今でもやっている。
- 悩んだ時に「これ飲んでおけばいい」という薬はない。ぼくは「山」「川」「土」等の自然や「友」で変わられた気がする。
- しんどい時は逃げてもいい。「考えて逃げる」「本能で逃げる」逃げ方も色々だと思う。
- ぼくは、運動すると気持ちがスッとした。筋トレにも挑戦した。散歩から始めることをおすすめします。
- 学校に行かなくなった日。それがぼくの記念日だと思えるようになった。学校を休むことによって色々な人と出会うことができ、そのことで自分がかわることができたように思うからだ。将来は起業したい。起業日は、この日にしようと思っている。
- 志摩ふれあい教室は、ぼくの母校である。



## ■親の思い■

息子のおかげで親自身も成長できました。本当にいろんなことを経験させていただきました。

- あの頃は気持ちに余裕がなかったように思います。ただただ息子と一緒にいて一緒にゲームをしていました。でも好きなことにのめり込む楽しさを共有できたように思います。
- 家族の中に自然と役割分担のようなことができていたように思います。息子にとって耳の痛くなるような話をする人、ありのままを受け止めて接する人など、それぞれがそれぞれの思いや立場で接することができたのはよかったです。
- 「甘やかす」と「好きなことをさせる」ことの線引きがとても難しいように思っていました。
- 息子の置かれた状況を否定的に捉える方も見えましたが、「10年後のこの子見たって！」という想いでいました。いろんな方のいろんな考えに触ることはよい経験にもなりました。
- 子どもには、親以外の信頼できる第三者の存在が必要だと思います。親には限界があるように思います。親にできないことを補ってくれる人の存在が重要だと思います。
- 子どもが学校へ行けないことを公言できない状況があるのではないか。「こうあるべき」という雰囲気に追い詰められ、親が孤立してしまうことはあってはならないことだと思います。

## みなさんへ

時折訪れる卒業生たちの姿から、当時を振り返り、あらためて気づかされることが多いです。子どもには「学校という居場所」「学校とはちがう居場所」など色々な居場所が必要です。また、「何でも話せる人」「何を話してもいい人」など色々な立場の人の存在も大切です。志摩ふれあい教室はそんな人とふれあうことができる場所です。子どもにとって安心できる環境がないとどんなことも頭に入りません。心に元気がない時、ホツとしたいとき、ぜひお話を聞かせて下さい。子どもにとって安心できる環境を一緒に作っていきましょう。

